

山高で『本物の学び』を身に着けよう！！

本校を導く飛騨高山高校の
本社へ「あひる」から



実社会を重視 本物学ぶ



20 飛騨高山高



定時制と通信制を併設し、二つのキャンパスで九百六十人が学ぶ県内最大規模の高校。全日制は、普通科と商業科、生活産業科、農業科に分かれていて、興味のある分野を専門的に学べる。

神出建太郎校長(左)は交流サイト(SNS)で地

「重視しているのは『実社会とのつながり』。現場で活躍している人と関わることで、教科書に載っていないことも吸収してほしい」と力を込める。

商業科ビジネス科では、元商店街の魅力を発信している。その中で、撮影方法を写真スタジオの社長から学んだり、専門家からSNSによる発信の仕方について講義を受けたりした。

商品開発を行う商業研究部でも、現代経営学の祖とされるピーター・ドラッカーの考え方を、ドラッカー読書会のメンバーから教わっている。「商品の開発だけで満足するのではなく、社会を変えるくらい意識を取り組んでほしい」(担任教諭)という思いからだ。

神出校長は「その道のプロを見ることで、高いレベルまで意識が引き上げられる。そこに実践を加えることで『本物の学び』が身に付きます」と語る。

(松沢侑香)

< 校章 >



高山高の校章を基にした。「高」の六角形の周りに、学校をイメージしたベンと、校舎から見える山脈をデザイン。それぞれ三つずつあるのは、高山高と斐太農林高、斐太高(通信制)の3校の統合と、「全日・定時・通信」の3課程があることを示す。

< 沿革 >

- 77年 高山高校の前身、高山実科高等学校開校
- 81年 斐太農林高校の前身、斐太実業学校開校
- 88年 斐太高校に通信制併設
- 95年 高山高校と斐太農林高校、斐太高校の通信制が統合し飛騨高山高校になる

< 校訓 >

快活、友愛、創造

< 主な卒業生 > 敬称略

- 白川英樹 (ノーベル化学賞受賞者)
- 村田忠夫 (米イリノイ大特別名誉教授)



山田キャンパスに、生徒が手がけたトマトや米、チーズなどを売る販売所「クールマーケット」がある。生徒や先けでなく、近所の人も買いにやってくる。販売実習もかねて、生徒が店立って対応。月水金の午後3～4時開店する。